

# 1 6 学習意欲を向上させる取組の実践例

～学習に対する姿勢が無解答率にあらわれた中学校の例～

## 学校紹介

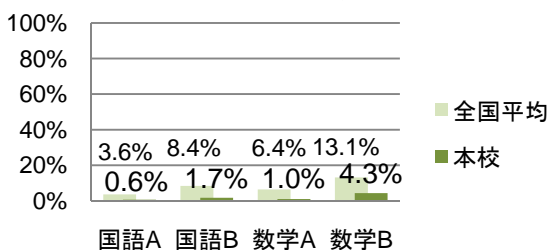
学校種	中学校（昭和22年開校）		
校区内小学校	3校		
学級数 生徒数	計10学級 (約280名)	第1学年 3学級（約90名） 第2学年 3学級（約100名） 第3学年 3学級（約90名） 特別支援学級 1学級（2名）	
教職員数	28名	校長・教頭	校長1名 教頭2名
		教諭	21名（うち、養護教諭1名）
		講師	1名
		事務職員	1名
		管理用務員	1名
		スクールカウンセラー	1名（1ヶ月に1回程度来校）

### ○学校の特徴

校区は狭く、ほとんどの生徒が徒歩通学である。就学援助の受給率は20%を超えており、家庭状況の厳しい生徒の割合が高い。また、教育に対する保護者の関心も高いものとはいえ、学校から積極的に情報を発信するよう努めている。

## 全国学力・学習状況調査の結果における特徴

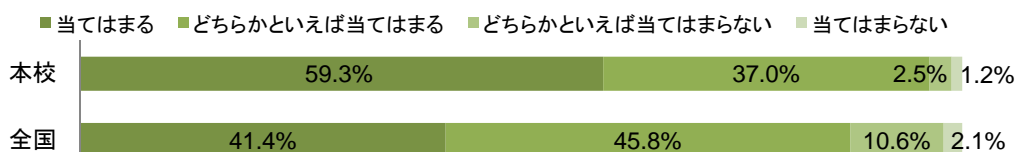
国語A B・数学A Bに係る無解答率  
(平成20年度)



本校の生徒は無解答率が低い水準にある。道徳教育を中心にした本校の取組により、生徒が調査に対し誠実に取り組んだため、この結果につながったものと本校では考えている。

本校の生徒の規範意識については、質問紙調査の結果にもあらわれており、例えば、正答率との相関がみられた「学校の規則を守っていますか」の結果も、「当てはまる」と答えた生徒の割合が全国を上回っている。

学校の規則を守っていますか(平成20年度)



### 授業における取組

#### すべての教育活動の基盤となる道徳教育の充実

本校では、生徒の心を安定させ、落ち着いた態度で学習に臨むことが、学力の向上に結び付くと考えているが、従来から生徒の生活態度や授業態度が課題となっていた。

このため本校では、道徳教育をすべての教育活動の基盤と位置付け、道徳教育の充実に力を入れつつ、学習意欲を向上させるための授業の実現に向け、校内研修の実施による授業力の向上に力を入れている。(後述)

##### ○道徳の時間の指導の充実

本校の道徳の時間においては、生徒がねらいとする道徳的価値に基づいた人間としての生き方を自覚できるようにするために、読み物資料を渡さずに、教員が臨場感をもって語り聞かせる資料提示を行っている。このことで、生徒は資料中の道徳的価値に係る事象を、自己の問題としてとらえ、教員と生徒、生徒相互が話し合いを通して道徳的価値の自覚を深めていくことができる。

また、話し合いを深めるために、机を取り除き黒板を囲むようにして、生徒相互が顔を合わせて一緒に考えられるように、学習形態の工夫を行っている。

さらに、総合的な学習の時間や特別活動など他の教育活動と道徳の時間との関連を図ったり、職場体験学習などでの体験を道徳の時間の学習に生かしたりすることで、道徳的価値の自覚が深まるようにしている。

##### ○道徳に関するアンケートの実施

年度が始まって間もなく(5月)、道徳に関するアンケートを全学年で実施し、生徒の道徳に関する考え方を把握し、道徳の時間において重点的に指導すべき内容を設定する際の参考にしている。アンケートは無記名で行い、設問内容が理解しやすいように、具体的な場面を取り上げるなど、生徒の考えを十分に引き出す工夫を行っている。

項目については、学校として指導すべき内容、学年として指導すべき内容、クラスとして指導すべき内容をそれぞれ明確に示し、道徳の授業実践に生かしている。

##### ○「道徳の日」の取組

月に1回「道徳の日」を設定し、道徳の授業公開をしたり、体験活動を実施したりして道徳的な価値について考える機会を設定している。また、全校生徒で「心のノート」を読んだり、書き込んだりする「心のノートタイム」も計画的に設定している。

### 教室からの声

- ・ 私は、小学校の時も道徳の時間が好きだったけれど、中学校になって道徳の時間がもっと好きになった。いろいろな話を聞いて、自分の視野が広がると思うから。また、何よりも道徳の時間には、自分なりの考えを発表することができたり、自分とは異なる友だちの考えを聞いたりすることで、自分の考えがより深まるから。これが道徳の時間の魅力だと思う。心のノートタイムでは、全校生徒が一斉に心のノートを読んだり、書いたりする取組で良いと思う。
- ・ 小さい時から読書をする習慣のなかった私は、中学校に入って毎朝読書をしなければならなくなったので、仕方なく読書を始めました。ところが、読んでいくうちに話がどのように展開するかが楽しみになり、休み時間も読むようになりました。読書が好きになりました。

## 学習意欲を向上させる授業を実現するために 一生徒から学ぶ

### ○生徒による授業評価アンケートの実施

PDCAサイクルによる授業改善の一環として、生徒への授業評価アンケートを定期的に行い、常に授業をより良いものへと改善していく努力をしている。

授業が教員だけではなく、生徒と教員が共につくり上げていくものであるという意識と、自分たちの意見を聞いてくれるという教員への信頼感をはぐくむことが、学習意欲の向上へとつながると考えている。

また、生徒の意見によって、教員が気付かなかった点に気付かされることもある。

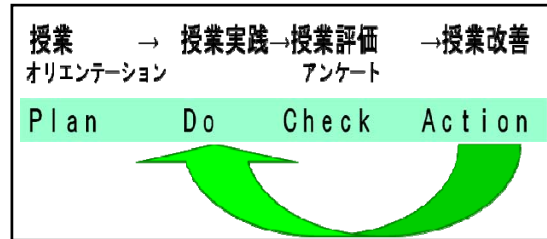
#### 【授業改善の年間スケジュール】

**4月** 生徒に対して、授業内容についてのオリエンテーションを行い、授業を実践する。

**7月** 1回目の授業評価アンケートを行い、それをもとに夏休みに授業改善レポートを作成する。

**9月** アンケート結果を生かし、授業実践を行う。

**1月** 2回目の授業評価アンケートを行い、授業者が改善を行った点について、生徒の意見を聞く。



**よりよい授業にするために1** H20年度版 (1年社会科)

評価者( )年( )組( )番 氏名( )

授業は生徒のみさんと先生の力を合わせてこそ、よりよいものになっていきます。生徒のみさんの意見を参考に、授業をよりよくしていくために授業評価を実施します。

★次の質問のなかであてはまる番号を○で囲んでください。  
(4…たいへんよい、3…よい、2…あまりよくない、1…よくない)

<各教科共通>

① 授業中の話し方は、聞き取りやすい。 ( 4 3 2 1 )

② 授業の内容説明がはっきりしている。 ( 4 3 2 1 )

③ 板書内容は読みやすく、わかりやすい。 ( 4 3 2 1 )

④ 教科書以外に教材やワークシート、具体物 ( 4 3 2 1 )  
などを用意している。

⑤ 気軽に授業内容について質問できる。 ( 4 3 2 1 )

⑥ 自分の意見や考えを大切にしてくれる。 ( 4 3 2 1 )

⑦ 授業を進める速さについて ( 4 3 2 1 )  
(もう少し速く 今のままでよい もう少しゆっくり)

<社会科項目>

⑧【歴史】各時代のキャッチコピーをつくることに対する意見を書いてください。

⑨【地理】作業が終わったらワークシートを前に持って行き、先生に○をつけてもらうことについての意見を書いてください。

#### 【自己評価】

あなたの授業や家庭学習への取り組みをチェックしましょう。あてはまる番号を○で囲んでください。

- ①授業の準備物が整っているか。 ( 4 3 2 1 )
- ②意欲をもって授業に取り組んでいるか。 ( 4 3 2 1 )
- ③先生や友だちの話をきちんと聞くことができたか。 ( 4 3 2 1 )
- ④学習内容をノートなどにきちんとまとめることができたか。 ( 4 3 2 1 )
- ⑤宿題は家できちんとできているか。 ( 4 3 2 1 )
- ⑥家で毎日決まった時間家庭学習をしているか。 ( 4 3 2 1 )

ご協力ありがとうございました。

### 教室からの声

- 生徒による授業評価アンケートは、先生方が生徒の意見を聞いてくれるので、自分の素直な気持ちや先生の授業への要望などを書くことができた。自分が要望で書いたことを先生が授業に取り入れてくれた時には、うれしかったし、授業評価アンケートを書いて良かったと思った。

## 学習意欲を向上させる授業を実現するために ―教員の学び合い―

教員一人一人の資質能力の向上や課題の解決を目指すとともに、学校全体を活性化させるため、「学習意欲の向上」をキーワードに、教科の枠を超えた教員同士の学び合いを通して、様々な校内研修を行っている。

校内研修を実施するに当たっては、参画意識を高めるため、研究主任が提示する案に基づいて、研究主題（目指す生徒像）やサブテーマを全員で検討することから始めている。こうしてすべての教員で検討して決めた研究主題を定着させるために、研修資料に必ず主題やテーマを掲載するようにしている。また、研修方法については、年度末に行う検証を基に改善を加えるなど、研修の活性化を図っている。

### ○「ちょこっと授業参観」の設定

研究授業等による計画的な研修のみならず、普段の授業を、短い時間であってもお互いに参観し、それぞれの授業力を向上させる取組を行っている。気軽に授業を見せ合える雰囲気づくりや、生徒をすべての教科で育てるという意識をもつことをねらいとしている。

### ○異なった教科の教員でのワークショップ型研修

ワークショップ型研修を取り入れ、異なった教科の教員同士で小グループを作り、積極的な意見交流を行っている。（国・英・社グループ、数・理グループ、4教科グループ）  
テーマについては以下の通りである。

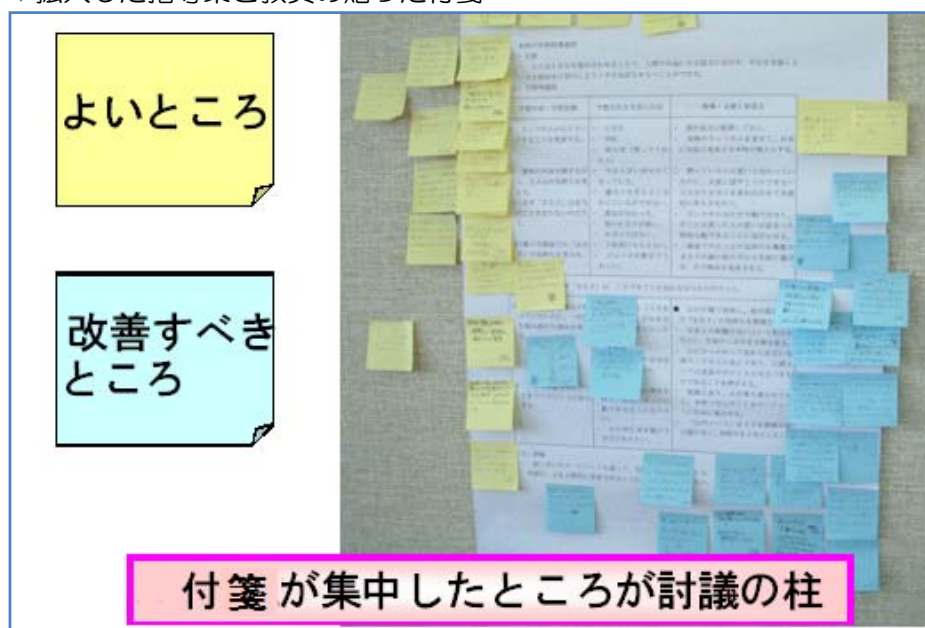
- ・ 平成19年度 「生徒による授業評価アンケートに基づいた授業づくりレポート」
- ・ 平成20年度 「活用型授業の在り方」

### 【フリーカード法を使っての授業討議の工夫①】

従前の校内研修について、授業討議が活発でない、討議が焦点化しないという課題が挙げられ、これを改善するために、本校では、平成19年度からフリーカード法を使った研修を取り入れている。

拡大した学習指導案を用意し、良いところには黄色の付箋<sup>せん</sup>、改善すべきところには水色の付箋<sup>は</sup>を貼り、付箋が集中したところを討議の柱としている。このようなフリーカード法を使うことによって、授業についての討議が活性化している。

#### ▼拡大した指導案と教員の貼った付箋



## 学習意欲を向上させる授業を実現するために（つづき）

### 【フリーカード法を使った授業討議の工夫②】

教員がフリーカード法を使った研修に慣れてきたら、学習指導案よりも複雑なマトリクスを活用して授業討議を行うことができる。討議の観点として、縦軸に授業参観の対象である学級全体と、学習への意欲や取組状況などの点から授業者が抽出した生徒3名を置き、横軸には、授業展開に沿った3つの場面、授業のねらいの達成度などを置く。

授業参観時に、学級全体用の授業参観シートと抽出生徒用授業参観シート（後述）を活用し、参観の観点を確認した上で、それぞれ感じたことを記入しておく。授業後の授業討議の前に、シートに記入した内容を付箋に書き写し、模造紙に記入したマトリクスに貼っていく。討議では、その模造紙をグループで取り囲み、観点ごとに意見交換を行う。

討議の際は、学級全体や抽出生徒の授業中の様子を撮影したビデオをいつでも再生できるように用意し、随時確認をしながら確実な分析を行えるようにする。

これらの工夫により討議の観点を明確にすることで、異なった教科の教員同士での討議が活発になり、研修をそれぞれの授業改善に有効に活用することができている。

### ○生徒を中心に考えた授業改善を図る授業参観シート

先述のマトリクス表を作成するに当たっては、次のような2種類の「授業参観シート」を作成し、活用している。

前者は学級全体についての、後者には抽出生徒についての参観者のコメントを記載するものであるが、生徒を中心に考えた授業改善につなげるため、いずれのシートも参観の視点を生徒の側に置いてある。

学級全体用のシートは、授業の展開（縦軸）に沿って、「生徒を見る視点」と、参観者のコメント欄を設けている（横軸）。

なお、「生徒を見る視点」については、授業者が参観者に注目してほしいポイントを記入する。

	生徒を見る視点	視点に対するコメント (教師の手立て等)
導入時	モデルディスカッションに興味・関心を示しているか。	
活動時	興味・関心をもって活動しているか。	
話し合い・発表時	自分から話し合いに積極的に参加しているか、他の友だちにわかるように発表しているか。	
授業者より	友だちと積極的に意見交換をしているか。	
学習目標	学習のねらいを達成するために工夫をしているか。	

▲授業参観シート（学級全体用）

## 学習意欲を向上させる授業を実現するために（つづき）

### ○生徒を中心に考えた授業改善を図る授業参観シート（つづき）

抽出生徒用観察シートは学級全体用の授業参観シートと同様、縦軸は時系列に、横軸には授業者の支援と生徒の具体的な発言や行動等を記入する。

これら2種類のシートを使つての授業参観について、96%の教員が肯定的にとらえている。教員の感想には、「授業を参観する時の視点が、これまでよりも明確になった。」「抽出生徒観察シートは、とても良い方法である。自分の授業を振り返る際、授業者が把握できていない細かな点やつぶやきなどを観察者がメモすることで、より深く分析でき、今後の課題が明確になりやすい。生徒の反応やつぶやきという視点は、どの教科にも生かすことができる。」等がある。

学習内容 学習活動	抽出生徒の 発言・行動等	教師の動き 支援等	観察者の所見
導入時 学習課題			
活動時			
話し合い・発表時			

▲授業参観シート（抽出生徒用）

## 家庭学習の習慣化のために

### ○生徒に学習方法を指導

家庭学習の方法が分からない生徒が多いという実態を踏まえ、年度初めに、第1段階とし、学級担任が学級活動の時間に効果的な自主勉強ノートを紹介するなど、生徒に家庭学習の方法を指導し、第2段階としては、教科担任が、授業で学んだ学習方法等を家庭で活用できるよう指導した。

### ○生徒会本部役員による家庭学習時間調べ

上記の結果を受け、学校や教員による取組以外に、生徒会の提案による取組も行われており、定期テストの前に学年ごとに1日の目標学習時間を設定し、テスト期間中（2週間）それより長く学習する生徒の割合を80%以上にするを目標にして、家庭学習時間調べが行われている。

## 教室からの声

- ・ 私は家ではほとんど勉強をしませんでした。生徒会から家庭学習調べをされると言われ、担任の先生も、「家で勉強をする習慣がないから、力も伸びないんだ。この際、みんなで毎日基準の時間を突破しよう。」と言うので、クラスみんなで基準の時間を毎日クリアすることになりました。みんなもやっているし、やっていないのに「やった」と嘘をつくのは嫌なので、2週間休まず続けました。おかげで、成績もグリーンとアップしました。やって良かったです。

# 家庭学習の習慣化のために（つづき）

## ○保護者や家庭への啓発

全国学力・学習状況調査の結果から、家庭学習が少ない、テレビやDVDの視聴時間が長い、といった本校生徒の実態が明らかになった。

そこで、このことをプリントで家庭に知らせ、家庭学習の習慣化に向けて協力を依頼するとともに、道德通信「さわやか」に家庭学習の重要性や方法等を掲載するなど、家庭と学校が一体となって、生徒の家庭学習のサポートをする工夫をしている。

また、道德通信には学校からの発信だけでなく、家庭や地域社会からの意見も随時掲載し、双方向の通信になるように工夫している。



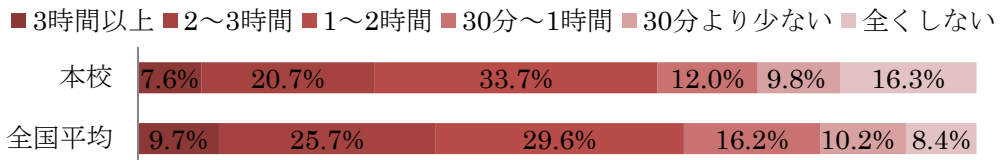
▲道德通信「さわやか」

## ▼家庭向けプリントの一部

### 家庭学習についてのお願い ～平成19年度全国学力・学習調査の結果より～

（前略）さて、今年度実施された全国学力・学習状況調査におきまして、本校生徒の実態として、学習時間の絶対量が少ないということが明白になりました。この結果を皆様方にお伝えし、学校と家庭が車の両輪になって、子どもたちの力を伸ばしていくことが必要だと考え、まず、生徒の調査結果を紹介します。

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（平成19年度）



上記のような様々な取組を行った結果、平成20年度調査では、家庭学習の時間が増えたという結果となった。今後も家庭学習の習慣化に向けて、継続した取組を行っていく予定である。

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（平成20年度）

